

# 桃山学院大学における朝鮮語講座に 関する意識調査の分析

オ  
呉マン  
満

## 目 次

- I 調査の趣旨と意義
- II 調査方法
- III 被調査者の実態
- IV 調査内容
- V 調査結果の分析
- VI あとがき

## I 調査の趣旨と意義

数年前から日本の各大学に朝鮮語科目が設置され運用されていることは喜ばしいことである。<sup>1)</sup> 特に日韓両国間の「基本関係条約」が締結された1965年を基点として考えて見ると、1965年以前に朝鮮語科目を設置していた大学は21校の中で、わずか3校にすぎず、他大学の設置の場合は1965年以降である。このことから考察すると、日本の各大学に於ける朝鮮語科目の設置、および運用が両国間の政治、経済等の関係と、どうかかわっているかを示して興味ある。従来、日本の大学における外国語教育は英語をはじめとする欧米先進諸国の言語が、大学の外国語科目の殆んどを占めていたことは周知の如くである。しかし、今日の国際情勢を考える時、従来のような外国語教育では国際社会における文化的、政治的、経済的交流の媒介手段としての役割を果たし得ないことは言うまでもない。

日本について考えて見る時、アジア諸国との関係が今後さらに重要性を帯びていくことは疑い得ないことである。現状では1部の国立大学(東京外大、大阪外大、富山大)と私立大学の天理大で正規の学科としての講座を持っているに過ぎず、他は第2外国語科目としての性格を帯びたものとして開講されているのが一般的状態である。

最近、確かに日本人の朝鮮語はもとより文化一般に対する関心は高まりつつある。このことは「NHKに朝鮮語講座の開設を要望する会」での運動が自発的にそれぞれの職場や地域で数万の署名を集めていることや地方での一般の日本人婦人達の学習熱等の記事報告、大阪外大の猪飼野朝鮮図書資料室が主催して開講した電話講座の人気状況からも推察できる。

明治の開国以来、朝鮮語の問題は日本の朝鮮支配政策と日本文化のひずみの問題としての運命を辿ってきたことは否めない事実である。このことは朝鮮語という言語だけに限定され論ぜられるものではない。日本が近代文化を形成する過程で何を選び、何を捨てたのかを考えると、選んだものが洋学であり、捨てたものの1つが朝鮮の言語と文化であったのである。その上、100年の学校教育の歴史の中でも、朝鮮語

## 1) 朝鮮語科目設置年度別学校数

設置年度	1925	'55	'61	'65	'66	'68	'69	'70	'73	'74	'75	'76	'77	'78
学 校 数	1	1	1	1	1	1	3	1	1	2	2	3	3	1

「日本の大学における朝鮮語教育に関する実態調査」(島利雄・金貞淑) <昭和54年3月> 筑波大学学内プロジェクト研究報告書 p. 7

は学ぶに価しない言語として否定され続けてきた。また、それを学んでも何の権威にも益にもならないという考え、むしろ日本国家の大陸侵略のための語学の1つとして1部では教授され指導されてきたというのが本音であろう。このような過去の事実は隣国を1つの対等な外国としてとらえる意識が確立するにいたらず、朝鮮語も1外国語としてとらえる感覚もさほど明確ではなかったといえる。

桃山学院大学では、1976年4月から朝鮮語が開講され、現在、朝鮮語初級・中級・上級<sup>2)</sup>にわけられている。その他、関連科目として、「韓国・朝鮮史」(鄭早苗講師担当)、「韓国・朝鮮文化史」(段熙麟講師担当)、それに“日韓両言語同系論の考察と検討”と題する「外書ゼミ」<sup>3)</sup>“韓国の風俗と家族制度”の内容をもつ「基礎ゼミ」<sup>4)</sup>が各担当者により開講されている。その他、年2回韓国・朝鮮関係の公開講演会がもたれていることは特記すべき事実であろう。以上の如く、桃大でのように韓国・朝鮮関係の講座が言語、文化、歴史という多方面にわたり開講されている大学は他の正規の学科としての数校を除けば、その存在性は高く評価されるべきである。

しかし、予想される今後の進展には様々な問題が横たわっていると推測される。

まず、従来のゆがんだ両国関係から最近の是正されつつある変化の中で、日本の大学、とりわけ、桃大に学ぶ日本の学生たちは、現行の韓国・朝鮮関係講座をどのように認識しているのか。

特に、朝鮮語講座に対してはどうか。

また、在日韓国・朝鮮人に対する意識はどうか等の問題は今後の指導と進展に1つの指針となるであろう。現在、これらの問題に関する調

- 2) 朝鮮語初級は2コマ4単位で筆者が担当し、中級・上級は1コマ2単位で段熙麟講師が担当している。
- 3) 「THE COMMON ORIGIN OF THE JAPANESE AND KOREAN LANGAGES—BY KANAZAWA」のテキストを使用して、1980年度に玉城繁徳講師が担当したが1年限りであった。
- 4) 「Korean Cultural Series Vol. III—Folk Customs and Family Life. BY TAE HUNG HA. YONSEI UNIVERSITY PRESS」のテキストを使用して筆者が担当している。なお、③④は人権関係講座ではない。

査、および分析はきわめて稀であり、その実態すらさだかでないのが実情である。

本稿は、桃大に於ける朝鮮語を初めとする韓国・朝鮮関係講座の望ましい進展、向上を図る前提的課題は現行の教育実態を正しく把握し、現状の確かな認識に基づいてこれからの進路を構想、実践していくことであると考え。本稿は、かような目的と意義を見出すべきことを意図して書かれたものである。<sup>\*</sup>

本調査の全体的性格は、桃大に於ける学生の実態を調査し、統計的に記述することにあるので、一種の実態記述調査といえる。

## II 調査方法

この調査を実施の段階と便宜上、A、Bに分けて記述することにする。

### A 調査

1. 日時：1979年1月中旬。
2. 被調査人員：191名。
3. 調査場所：講義室。

実態調査をするためには可能な限り的人数を対象とすべきであるが、第1回目のA調査では、時期的に後期の試験実施前であったが、考査の内容説明が一応終わった段階であったためか、人数が少なく、回収率に関しては所期の目標を必ずしも達成したとは言い難い。

被調査人員191名の内訳は、「韓国・朝鮮史」が119名。「韓国・朝鮮文化論」が50名。「基礎ゼミ」が8名。「朝鮮語」が14名である。

### B 調査

1. 日時：1980年12月中旬。
2. 被調査人員：465名。
3. 調査場所：講義室。

B調査はA調査に比べて、多くの学生を対象とすることができた。被調査人員465名の内訳は、「韓国・朝鮮史」が343名、「韓国・朝鮮文化論」が74名、「基礎ゼミ」が12名、「朝鮮語」が8名。それに今回は「中国語」受講生28名を対象とすることができた。なお、語学やゼミを受

<sup>\*</sup> 本稿は桃山学院大学総合研究所のプロジェクト「在日韓国・朝鮮人の現状分析」の研究の一部である。

講している者の中、必修選択科目である「韓国・朝鮮史」と「韓国・朝鮮文化論」と重複して受講している事実があることを付言しておきたい。

### Ⅲ 被調査者の実態

既に述べた如く、A調査の191名とB調査の465名のおおのこの被調査者の学年の分布状況は一定ではなく、1回生から4回生と4回生以上を含んでいる。<sup>5)</sup> 従って年齢も18才から24才ぐらいまでの学生であると概観することができよう。

今、参考上、これら被調査者の学生の実態を把握する上で、昭和55年度に、桃大、学務課からの「新入生実態調査アンケート報告書」によ

ると、本学の学生は3学部(経済・社会・経営)共通して、長男である者が69.3%と大部分を占め、出身高校も都道府県立が73%強である。出身高校所在地から被調査者の地域的要因を観察して見る時、大阪と近畿(滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山)を合わせると、74.6%であることから関西地方の地域性を背景にしていると判断できよう。また、高校での課程は普通科出身が95.2%と圧倒的である。入学後、学びたい外国語に関しては、中国語の希望者が全体の12.9%とフランス語の13.1%と近似しているのは興味深い。これも日中国交正常化の反映か。朝鮮語は1.3%と最下位にランクづけされている。これも恐らくは一般的な傾向と言えるだろう。以下、参考までに以上のことを表に示すと次の

(表1)

学部	回答者	続柄							性別	
		長男	次男	三男	長女	次女	三女	その他	男	女
3学部	1,194人	827人	283人	35人	35人	8人	1人	5人	1,150人	44人
	100%	69.3%	23.7%	2.9%	2.9%	0.7%	0.1%	0.4%	96.3%	3.7%

(表2)

学部	回答者	出身高校				
		国立	都道府県立	市立	私立	その他
3学部	1,194人	2人	875人	64人	253人	0人
	100%	0.2%	73.3%	5.4%	21.2%	0%

(表3)

学部	回答者	出身高校所在地								
		東日本	中部	北陸	大阪	近畿	中国	四国	九州	その他
3学部	1,194人	8人	28人	20人	636人	254人	155人	71人	22人	0人
	100%	0.7%	2.3%	1.7%	53.3%	21.3%	13.0%	5.9%	1.8%	0%

5) 参考までに1980年度の「韓国・朝鮮史」受講登録者2118名の中、4回生以上(52名)、4回生(518名)、3回生(482名)、2回生(397名)、1回生(669名)であり、「韓国・朝鮮文化論」受講登録者

387名中、4回生以上(21名)、4回生(143名)、3回生(75名)、2回生(64名)、1回生(84名)である。鄭早苗講師の報告による。

(表4)<sup>6)</sup>

類別 項目 学部 回答者		入学後学びたい外国語								
		英語	フランス語	ドイツ語	スペイン語	ロシア語	中国語	朝鮮語	その他	特になし
3学部	1,194人	588人	156人	98人	34人	8人	154人	15人	7人	134人
	100%	49.2%	13.1%	8.2%	2.8%	0.7%	12.9%	1.3%	0.6%	11.2%

(表5)

類別 項目 学部 回答者		趣味(1つのみ選択)								
		読書	映画・演劇	音楽	絵画・彫刻	囲碁・将棋	登山・旅行	スポーツ	釣り	コレクション
3学部	1,194人	136人	104人	403人	11人	23人	73人	339人	49人	29人
	100%	11.4%	8.7%	36.0%	0.9%	1.9%	6.1%	28.4%	4.1%	2.4%

如くである。これらの資料と結果は過去1, 2年の間にたいした変動もなかったと思われるので、本調査の段階での被調査者の実態を把握する時、参考となろう。

#### Ⅳ 調査内容

本調査の第1回目のアンケート用紙のタイトルを「韓国・朝鮮関係講座に対する意識調査」としながら、各項目は朝鮮語講座に対する質問

になっているのは初期の段階での目的がそこにあったからである。調査項目に関してはいろいろ問題があることは否めない。このように問題を含みながらも、第2回目のB調査の各項目も〔1〕から〔7〕まで同様であるのは第1回目のA調査と第2回目のB調査との比較を試みたかったためである。

なお、第1回目のA調査には第2回目のB調査の項目〔8〕から〔16〕までの項目はない。

#### —韓国・朝鮮関係講座に対する学生の意識調査—

1980年12月

このアンケート調査は桃大における韓国・朝鮮関係の講座に対する学生諸君の意識調査を分析することによって、将来よりよい指導と内容の進歩を期して広く意見を聞くためのものです。皆さんの御協力をお願いします。

各項目の該当記号を○で囲んで下さい。

6) 1980年度の本学の講義要項に依ると、表4の外国語は第2外国語科目として全て履習することができる。ただし選択科目である。また、各外国語は初, 中, 上の3段階に分かれており、そのうち、

フランス語, ドイツ語は初級が3クラス, 中国語は2クラス, 設置され, 他は初級が1クラスである。

- [1] 桃大には現在、韓国・朝鮮関係の講座が5教科（朝鮮語 初・中・上、韓国・朝鮮史、韓国・朝鮮文化論、と、それ以外に基礎ゼミ〈韓国の民俗学一般講義〉）がありますが、あなたはこのことを知っていますか。

A 知っている B 知らない C 信じられない  
D 基礎ゼミで扱っているとは知らなかった。

- [2] 最近、各大学で広くアジア関係の講座の設置が増加していますが、あなたはこのことについてどう思いますか。

A 必要である B 不必要である C そんなことは全く知らなかった

- [3] 桃大において朝鮮語講座が設置されて満4年になろうとしています、あなたはこのことを知っていますか。

A 知っている B だいたい知っていた C 知らない

- [4] 桃大における朝鮮語講座の人気はどうですか。

A 良い B ふつう C わるい D わからない

- [5] [4]でCを選んだ人はその理由をどう考えますか。

A 朝鮮語講座に対する認識不足がある。 B 朝鮮語を学んでも利用価値が低いから。  
C 一般に朝鮮語に対するべつ視感がある。 D 独特な文字をもつ言語であるため。  
E 内容がよくわからないため。

- [6] 桃大における朝鮮語講座についてどう考えますか。

A 学び易いと聞いているので是非受講したい。 B 受講したいが外国語に自信がない。  
C 今のところ英語で精一杯である。 D 自分はできないが人には勧めたい。

- [7] 桃大において朝鮮語講座は他の外国語と同様、第2外国語としては選択科目ですが必修科目とすべき必要があると考えますか。

A はい B いいえ C 今のままでよい D よくわからない

[8] 現行の講座名「朝鮮語」は「韓国語」と改名すべきだと考えますか。

A 今のままでよい B 改名すべきだ C どちらでもよい D よくわからない

[9] 「朝鮮」「朝鮮語」の感じはどうですか。

A 良い感じがする B 悪い感じがする C 北部の政権「朝鮮民主主義人民共和国」のことを考える D 社会主義を思い出す E 在日朝鮮人のことを思い出す

[10] 「韓国」「韓国語」の感じはどうですか。

A 良い感じがする B 悪い感じがする C 南部の政権「大韓民国」のことを考える D 資本主義を思い出す E 在日韓国人のことを思い出す

[11] あなたは隣国、「韓国・朝鮮」のことを今よりもっと知りたいですか。

A もっと知りたい B あまり知りたくない C 知っても仕方がない  
D よく知っている

[12] 日本には韓国・朝鮮人がどのくらい居住していると思いますか。

A 5万人以下 B 10万人ぐらい C 30万人ぐらい D 70万人ぐらい  
E 100万人ぐらい

[13] 「朝鮮」という呼び名に、あなたはどんな感じを受けますか。

A 明るい B 暗い C 生き生きしている D きれい E きたない  
F 富んでいる G 貧しい H その他の感じ( )

[14] 「韓国」という呼び名にあなたはどんな感じを受けますか。

A 明るい B 暗い C 生き生きしている D きれい E きたない  
F 富んでいる G 貧しい H その他の感じ( )

[15] 近年、在日韓国・朝鮮人の中で日本人に帰化する人が増加していますが、あなたはこれについてどう考えますか。

- A 歓迎する B 歓迎しない C 仕方がない D 血が混じるので絶対反対である E そんなことは知らなかった

[16] 在日韓国・朝鮮人の居住についてどう思いますか。

- A 何人住んでも自由である B 法的に居住が許されている人は日本に住んでもよい C 本国に帰国して欲しい D これ以上増えて欲しくない

[17] 朝鮮語講座についてあなたの自由な意見を述べて下さい。

以上

(表6) A調査の全体的傾向

調査番号	回答別	A	B	C	D	E	計
	人数	160	24	3	—	—	187
%	85.5	12.7	1.6	—	—	97.9	
2	人数	174	1	16	—	—	191
	%	91.1	0.5	8.5	—	—	100
3	人数	73	68	50	—	—	191
	%	38.2	35.6	26.2	—	—	100
4	人数	6	19	42	115	—	182
	%	3.3	10.4	23.1	63.2	—	95.3
5	人数	21	13	17	2	6	59
	%	35.6	22.0	28.8	3.4	10.2	30.9
6	人数	23	64	72	20	—	179
	%	12.8	35.8	40.2	11.2	—	93.7
7	人数	39	72	78	—	—	189
	%	20.6	38.1	41.3	—	—	98.9

以下、単純集計の結果を概観し、かつ分析してみよう。さらに、特徴点およびA調査とB調査の比較を試みいくつかの重要な点について述べることにする。(表7)参照。

まず、A調査の全体的傾向を表に示すと上の如くである。(表6)参照

次に、B調査と比較するために、調査番号

[1] から [7] までを対照させてみることにする。(表7)参照。

(表7)のうちで、調査番号[1]におけるB調査では回答別のところで、Dが増えており、また、調査番号[7]におけるB調査では回答別のところで同じくDが増えているのはB調査の段階で補充したためである。また、既述した

(表7) A調査とB調査の比較対照表

調査番号	回答別		A	B	C	D	E	計
	1	A	人数	160	24	3	—	—
%			85.5	12.7	1.6	—	—	97.9
B		人数	213	42	6	208	—	469
		%	45.1	9.0	1.3	44.7	—	100.9
2	A	人数	174	1	16	—	—	191
		%	91.1	0.5	8.5	—	—	100.1
	B	人数	348	12	102	—	—	462
		%	74.8	2.6	21.9	—	—	99.4
3	A	人数	73	68	50	—	—	191
		%	38.2	35.6	26.2	—	—	100.1
	B	人数	92	135	235	—	—	462
		%	19.8	29.0	50.5	—	—	99.4
4	A	人数	6	19	42	115	—	182
		%	3.3	10.4	23.1	63.2	—	95.3
	B	人数	20	73	65	306	—	464
		%	4.3	15.7	13.9	65.8	—	99.8
5	A	人数	21	13	17	2	6	59
		%	35.6	22.0	28.8	3.4	10.2	30.9
	B	人数	30	30	13	8	11	92
		%	32.6	32.6	14.1	8.7	11.9	99.9
6	A	人数	23	64	72	20	—	179
		%	12.8	35.8	40.2	11.2	—	93.7
	B	人数	31	112	264	43	—	450
		%	6.7	24.1	56.8	9.2	—	96.8
7	A	人数	39	72	78	—	—	189
		%	20.6	38.1	41.3	—	—	98.9
	B	人数	27	108	267	53	—	455
		%	5.1	23.2	57.4	11.4	—	97.8

如くB調査の被調査者の統計が465名であったが、学生の中には2つ以上選択した者もあり、回答率が100%を超えているものがある。

では、次に調査番号〔1〕から順に各項目についての具体的な分析をしてみることにする。

## V 調査結果の分析

### (a) 調査番号〔1〕

桃大には現在、韓国・朝鮮関係の講座が5教

科（朝鮮語 初・中・上，韓国・朝鮮史，韓国・朝鮮文化論），と、それ以外に基礎ゼミ〈韓国の民俗学一般講義〉がありますが、あなたはこのことを知っていますか。

調査番号〔1〕で回答別に①を付加したのは、筆者が担当している基礎ゼミが学生にどのように意識されているかを調べたかったからである。

（表8）から判断すれば、A調査では殆んどどの学生が本学において設置されている韓国・朝鮮



(表8)

調査番号	調査別	A 調査	B 調査
	回答別		
〔1〕	㉠ 知っている	160 (85.5)	213 (45.1)
	㉡ 知らない	24 (12.7)	42 (9.0)
	㉢ 信じられない	3 (1.6)	6 (1.3)
	㉣ 基礎ゼミで扱っているとは知らなかった。	—	208 (44.7)

関係講座に対する認識がなされていると分析できる。しかし、B調査で見ると、基礎ゼミで、韓国の民俗学一般を講義していることの認識があまりなされていないことが今回この調査で明らかになった。また、知らない。信じられないと回答した者の中には、朝鮮語初・中・上の3クラスが設置されていることに対する認識の低下があると見られる。<sup>7)</sup>

このことは(表4)の「入学後学びたい外国語の中で朝鮮語が全回答者1194人中15人(1.3%)と低いことと、1980年度1月の2回生以上583人を対象とした調査「興味を持っている科目」の項目<sup>8)</sup>で外国語が37人(5.4%)と低いことから判断できる。なお、参考までに、「韓国・朝鮮史」、「韓国・朝鮮文化論」が学生にどのように認識されているかを同調査書より引用す

(表9)

受講科目	人数	%
イ. 部落問題	6	1.7
ロ. 韓国・朝鮮文化論	21	6.1
ハ. 韓国・朝鮮史	17	4.9
ニ. 社会運動史	22	6.3
無記入	281	81.0
計	347	100

- 7) 桃大では部落問題、韓国・朝鮮文化論、韓国・朝鮮史、社会運動史の4科目は人権問題関連科目として選択必修科目である。  
 8) 「被差別部落に関するアンケート調査の結果(2)」1980年1月、桃山学院大学・部落問題委員会、p.7 参照。

(表10)

将来受講したい科目	人数	%
イ. 部落問題	25	7.1
ロ. 韓国・朝鮮文化論	12	3.4
ハ. 韓国・朝鮮史	10	2.8
ニ. 社会運動史	52	14.7
ホ. その他	7	2.0
無記入	247	70.0
計	353	100

れば次の如くである。(表9)(表10)参照

(b) 調査番号〔2〕

最近、各大学で広くアジア関係の講座の設置が増加していますが、あなたはこのことについてどう思いますか。<sup>9)</sup>

(表11)から、A調査、B調査とも大部分の学生が、アジア関係の講座の設置の増加に対して肯定的であることがわかる。しかし、㉣の「そんなことは全く知らなかった」を回答した者が、A調査の8.5%に対してB調査では21.9%と高率であることから推察して、B調査のように被調査者が増加すれば、まだなお現状を察知できないでいる認識の低下が見られるものと思われる。また、このことは桃大に於いて文学部がないことも若干の関係があらうと考えられる。し

9) この項目に於ける「アジア関係の講座の設置が増加…」に関しては、最近、2, 3の大学で「国際関係学科」の名称で講座が増えている。なお、昭和53年12月現在、朝鮮語科目が設置されている大学は全体で21校である。

(表11)

調査番号	調査別	A 調査	B 調査
	回答別		
〔2〕	㉠ 必要である	174 (91.1)	348 (74.8)
	㉡ 不必要である	1 (0.5)	12 (2.6)
	㉢ そんなことは全く知らなかった	16 (8.5)	102 (21.9)

かし、一般的な観点から見ると、桃大のように、「在日韓国・朝鮮人問題公開講演会」や「人権問題公開講演会」が人権委員会の主催により開催されている実状等によりよく認識されている方だと考えられる。

(c) 調査番号〔3〕

桃大において朝鮮語講座が設置されて満4年になろうとしています。あなたはこのことを

知っていますか。

A調査の段階では、桃大に於いて朝鮮語講座が設置されて満3年であった。(表12) からA調査では「知っている」と「だいたい知っていた」を合わせると、73.8%。B調査では、48.8%と低下が見られる。この内容をB調査で分析すると次の如くである。

(表12)

調査番号	調査別	A 調査	B 調査
	回答別		
〔3〕	㉠ 知っている	73 (38.2)	92 (19.8)
	㉡ だいたい知っていた	68 (35.6)	135 (29.0)
	㉢ 知らない	50 (26.2)	235 (50.5)

(表13)<sup>11)</sup>

調査番号	被調査者(受講生別)	㉢ 知らない	
〔3〕	中国語(初級・中級)	22 (78.6)	9.4
	韓国・朝鮮文化論	29 (39.2)	12.34
	韓国・朝鮮史	183 (53.4)	77.9
	朝鮮語(初級・中級・上級)	1 (12.5)	0.4
	計	235人	100%

10) 1977年11月2日の第1回より1980年12月2日まで計8回の公開講演会が本学の2-101大教室で開催された。

11) ( )内は被調査者を受講生別にして出した百分率である。なお、被調査者のうち「基礎ゼミ」受講12名のうち㉢を選択したものは0名であった。

(表14)

調査番号	調査別		A 調査	B 調査
	回答別			
〔4〕	㉠ 良い		6 ( 3.3)	20 ( 4.3)
	㉡ ふつう		19 (10.4)	73 (15.7)
	㉢ 悪い		42 (23.1)	65 (13.9)
	㉣ わからない		115 (63.2)	306 (65.8)

(表13)により、「中国語(初級・中級)」受講生と「韓国・朝鮮史」受講生に調査番号〔3〕の㉢に対する認識不足が目立った。

(d) 調査番号〔4〕

桃大における朝鮮語講座の人気はどうですか。

この調査項目は、本学に於ける現行の「朝鮮語講座」を学生がどのように意識しているか、をみようとしたものである。(表4)により、既に見た如く、昭和55年度の学務課の「新入生実態調査アンケート報告書」によると「入学後学びたい外国語」は全回答者1194人中、15人(1.3%)で他の外国語に比べてかなり低いことがわかっている。「わからない」と回答したものがそれぞれ60%強を示したのは一応理解できるとしても、「悪い」と回答した原因はどこにあるのであろうか。この調査項目は、大学に入学する前の段階での認識とも受け取られるので、一

般的に朝鮮語講座に対してどのように認識しているか、と関係して興味ある問題である。「悪い」と回答した者の、その理由を調査したのが次の調査番号〔5〕の項目である。

(e) 調査番号〔5〕

〔4〕でCを選んだ人はその理由をどう考えますか。

(表15)により、朝鮮語講座に対する人気が悪いのは、「㉠朝鮮語講座に対する認識不足」と「㉡朝鮮語を学んでも利用価値が低いため」であることがわかる。また、本調査で見るとは「朝鮮語講座」に対する人気が悪いのは、一般に朝鮮語に対するべっ視感があるためである、との認識がかなり好転していると思われる。このことは、桃大に於ける人権問題関連科目の運用と人権委員会が主催するさまざまな講演会の効果と認識すべきであろうか。

(表15)

調査番号	調査別		A 調査	B 調査
	回答別			
〔5〕	㉠ 朝鮮語講座に対する認識不足がある		21 (35.6)	30 (32.6)
	㉡ 朝鮮語を学んでも利用価値が低いため		13 (22.0)	30 (32.6)
	㉢ 一般に朝鮮語に対するべっ視感がある		17 (28.8)	13 (14.1)
	㉣ 独特な文字をもつ言語であるため		2 ( 3.4)	8 ( 8.7)
	㉤ 内容がよくわからないため		6 (10.2)	11 (11.9)

(表16)

	多い	普通	少い
(1) 朝鮮語学習の必要性をあまり感じない	60	27	13
(2) 必修あるいは共通外国語として定められていない	72	28	00
(3) 朝鮮語は難しいと思う	07	40	55
(4) 受講したいが他の講義時間と重なっている	42	29	29
(5) 卒業単位として計上されない	30	30	40

\* 数値は ratio を示す

(表15)と関連して、筑波大学の「日本の大学における朝鮮語教育に関する実態調査」(昭和54年3月)の中で「朝鮮語科目の受講しにくい点」の項で次のような表を示しながら述べていることは示唆に富むといえよう。(表16)参照

“朝鮮語科目の受講しにくさについての質問で「多い」の欄に解答が多い項目は一番目が(2)必修、あるいは共通外国語として定めていない(72%)、二番目が(1)朝鮮語学習の必要性をあまり感じない(60%)、三番目が(4)受講したいが他の講義時間と重なっている(42%)である。それらは朝鮮語学習の必要性にも関係があるが、大学の当局の理解が切実に要求されるべきであると思われる。「少い」の欄に答えが多い項目は一番目が(3)朝鮮語は難しいと思う(55%)、二番目が卒業単位として計上されない(40%)であ

り、他の外国語に比較して学び易いと思っている学生が多いことを示している。つまり教務担当者及び指導担当者の努力と協力があれば朝鮮語受講者の数は増えるであろうと思われる。”<sup>12)</sup>

(f) 調査番号〔6〕

桃大における朝鮮語講座についてどう考えますか。

この設問は「朝鮮語講座」に対する受講意志の有無と、もし、受講意志がない場合には、その理由がどこにあるかを問う項目である。㉔の「学び易いと聞いているので是非受講したい」の設問に対して、朝鮮語が果して学び易いかどうかは問題が残るとしても、是非受講したいと答えた者がA調査で23名(12.8%)、B調査で31名(6.7%)であったことは一応の結果として評価し得ても、㉕の「受講したいが外国語は自

(表17)

調査番号	調査別		
	A調査	B調査	
〔6〕	㉔ 学び易いと聞いているので是非受講したい	23 (12.8)	31 (6.7)
	㉕ 受講したいが外国語に自信がない	64 (35.8)	112 (24.1)
	㉖ 今のところ英語で精一杯である	72 (40.2)	264 (56.8)
	㉗ 自分ではできないが人には勧めたい	20 (11.2)	43 (9.2)

12) 昭和53年度筑波大学学内プロジェクト研究報告書、「日本の大学における朝鮮語教育に関する実態調査」(昭和54年3月), p. 14 参照。

(表18)

調査番号	調査別	A 調査	B 調査
	回答別		
〔7〕	Ⓐ はい	39 (20.6)	27 (5.1)
	Ⓑ いいえ	72 (38.1)	108 (23.2)
	Ⓒ今のままでよい	78 (41.3)	267 (57.4)
	Ⓓ よくわからない	—	53 (11.4)

信がない」と、Ⓒの「今のところ英語で精一杯である」を合わせると、A調査で76%、B調査で80.9%の高率を示していることから、桃大における学生の第2外国語に対する受講意志の低下を推察できるといえよう。

筆者は桃大に於いて「朝鮮語講座」が設置された翌年の1978年度次から「朝鮮語、初級」を担当しているが、1978年度は受講登録者が25名、1979年度は21名、1980年度は16名であった。しかし、現状は、毎年受講だけしておいて初回の授業から出席しない者が約3分の1を占め、更に発音練習の段階でまた約3分の1が脱落していく。結局、受講登録者の3分の1程度の学生が朝鮮語を学び単位を取得していくのが実態である。中国語の場合も担当者に何うと大同小異とのであるので、本学の一般的な実態として、(表17)はその実情を示していると言える。たゞし、朝鮮語講座の場合は、朝鮮語講座に対する認識不足を是正していく方向を大学当

局と担当者自らが協力し、努力していくことが要求されると考えられる。

#### (g) 調査番号〔7〕

桃大において朝鮮語講座は他の外国語と同様、第2外国語としては選択科目ですが、必修科目とすべき必要があると考えますか。

(表18)より、朝鮮語講座が必修科目になることにはA調査、B調査とともに全体の8割程度の者が反対であることを示している。このことは、桃大において、第2外国語が選択必修科目になることに対する可否問題とも関連することなので、一般的に考えて、本学の学生は第2外国語を現行の如く選択科目として支持、賛成しているとも理解できる。

#### (h) 調査番号〔8〕

現行の講座名「朝鮮語」は「韓国語」と改名すべきだと考えますか。

現行の講座名「朝鮮語」を「韓国語」と改名すべきか、否か。あるいはこのような設問自体

(表19)

調査番号	回答別	B調査; 434人 (93.3)
〔8〕	Ⓐ今のままでよい	92 (19.8)
	Ⓑ改名すべきだ	50 (10.8)
	Ⓒどちらでもよい	161 (34.6)
	Ⓓよくわからない	131 (28.2)

(表20)

調査番号	回 答 別	B調査, 468名 (100.6)
〔9〕	㉠ 良い感じがする	24 ( 5.2)
	㉡ 悪い感じがする	55 (11.8)
	㉢ 北部の政権「朝鮮民主主義人民共和国」のことを考える	163 (35.5)
	㉣ 社会主義を思い出す	41 ( 8.8)
	㉤ 在日朝鮮人のことを思い出す	185 (39.8)

にもいろいろ問題があろうが、現実には、NHK放送に「朝鮮語講座」設置促進運動の際にこの講座名称問題が論議されたいきさつがある。調査番号〔8〕からはA調査との比較はできないが、今回の調査により、桃大の学生の中にも「韓国語」と改名すべきであると回答したものが50名(10.8%)いることが判明した。他大学では一体どうであろうか。筑波大学の実態調査に依れば『科目名はほぼ「朝鮮語と名づけられているが、亜細亜大学、桜美林大学では「韓国語」、上智大学と東海大学では「コリア語」という科目名で行なわれていて……』<sup>12)</sup>とあることから、他大学においても、朝鮮語の講座名に苦心の跡を推察することができる。朝鮮語の講座名に関しては言語学上の解釈やその他いろいろな解釈や論法により問題となるところであるが、今ここではその問題を扱わないことにする。しかし、一定の講座名に統一されることが望ま

しいことは論をまたない。

(i) 調査番号〔9〕

「朝鮮」「朝鮮語」の感じはどうですか。

桃大の学生一般は「朝鮮」「朝鮮語」にどんなイメージを抱いているのであろうか、を設問した結果(表20)で見ると、㉠良い感じがすると答えたもの(5.2%)よりも㉡悪い感じがすると答えたもの(11.8%)の方が多かったこと。㉢の北部の政権「朝鮮民主主義人民共和国」のことを考える(35.5%)、㉣の在日朝鮮人のことを思い出す(39.8%)から悪い感じを抱きながら北部の政権と在日朝鮮人のことをイメージとして持っていることがわかる。しかし、それとても高率でないことに注目して、朝鮮という呼び名称や朝鮮語がかなり日本の社会でなじんだ呼び名であることがわかる。

(j) 調査番号〔10〕

「韓国」「韓国語」の感じはどうですか。

(表21)

調査番号	回 答 別	B調査, 439名 (94.4)
〔10〕	㉠ 良い感じがする	56 (12.0)
	㉡ 悪い感じがする	28 ( 6.0)
	㉢ 南部の政権「大韓民国」のことを考える	235 (50.5)
	㉣ 資本主義を思い出す	21 ( 4.5)
	㉤ 在日韓国人のことを思い出す	99 (21.3)

12) 筑波大学, 同研究報告書, p. 12 参照。

(表21)により、㉠の良い感じがする(12.0%)が、㉡の悪い感じがする(6.0%)を上まわった。このことは、「朝鮮」「朝鮮語」が逆の調査結果で表れたことと比べて興味がある。また、「朝鮮」「朝鮮語」が北部の政権に対するイメージよりは「韓国」「韓国語」の方がやはりはっきりと南部の政権に対するイメージの意識を明確にしているといえる。しかし、在日韓国・朝鮮人に対しては「韓国」「韓国語」という名称よりは「朝鮮」「朝鮮語」という名称の方に若干比重を置いているように思われる。いづれにせよ、調査番号〔9〕〔10〕から判断すると、「韓国」「韓国語」といえば、南部の政権を、「朝

鮮」「朝鮮語」といえば、北部の政権と在日朝鮮人をダブつかせている傾向がみられる。

(k) 調査番号〔11〕

あなたは隣国、「韓国・朝鮮」のことを今よりもっと知りたいですか。

(表22)より、被調査者の半数以上が隣国「韓国・朝鮮」に対して、もっと知りたい(56.3%)と回答していることがわかる。このことは、既に述べた「人権問題関連科目」中、「韓国・朝鮮史」、「韓国・朝鮮文化論」の受講生が他の科目に比して年々増加していることから窺知できる。ちなみに、設置当初からの受講登録者の推移を概観すると次の如くである。

(表22)

調査番号	回 答 別	B調査, 459名 (98.7)
〔11〕	㉠ もっと知りたい	262 (56.3)
	㉡ あまり知りたくない	95 (20.4)
	㉢ 知っても仕方がない	95 (20.4)
	㉣ よく知っている	7 (1.5)

(表23) 年度別受講登録者数<sup>13)</sup>

	韓国・朝鮮史	韓国・朝鮮文化論
1978年	269	265
1979年	1,033	480
1980年	2,118	387

(1) 調査番号〔12〕

日本には韓国・朝鮮人がどのくらい居住していると思いますか。

日本には現在、約65万人の在日韓国・朝鮮人が住んでいると言われている。<sup>14)</sup> どの地方へ行

っても在日韓国・露鮮人のいないところはないと言われるぐらいである。一般に学生たちはどのように認識しているのだろうか。㉠の「70万人ぐらい」と㉡の「100万人ぐらい」を合わせると、63.5%、㉠㉡㉢と合わせると36.7%から、半数以上の者がだいたいこの在日韓国・朝鮮人居住者についての認識を持っていると考えられる。この設問結果と調査番号〔16〕との関係はのち程述べてみたい。

(m) 調査番号〔13〕

「朝鮮」という呼び名に、あなたはどんな感じを受けますか。

この設問項目は、調査番号〔9〕をより具体的に観察しようとしたものである。結果として、「朝鮮」という呼び名に対して、㉠「明るい」(3.4%)よりは㉡「暗い」(40.3%)、㉢「きれい」(1.7%)よりは㉣「きたない」(4.2%)、㉤「富んでいる」(0.6%)よりは㉥「貧しい」(19.7

13) 実数は「韓国・朝鮮史」担当の鄭早苗氏からの報告による。

14) 「第18出入国管理統計年報」(1979年)版によると、外国人登録者総数766,894人(1978年12月31日現在)中、在日韓国・朝鮮籍は659,025人(85.93%)である。1952年から1978年までの朝鮮人帰化許可者数87,794名(「在日朝鮮人の帰化」金英達, p. 80参照)と不法入国者を含めると実数はかなり増える。

(表24)

調査番号	回 答 別	B調査, 466名 (100.2)
〔12〕	㉑ 5万人以下	9 ( 1.9)
	㉒ 10万人ぐらい	43 ( 9.2)
	㉓ 30万人ぐらい	119 (25.6)
	㉔ 70万人ぐらい	181 (39.0)
	㉕ 100万人ぐらい	114 (24.5)

(表25)

調査番号	回 答 別	B調査, 472名 (101.5)
〔13〕	㉖ 明るい	15 ( 3.4)
	㉗ 暗い	190 (40.3)
	㉘ 生き生きしている	29 ( 6.8)
	㉙ きれい	8 ( 1.7)
	㉚ きたない	20 ( 4.2)
	㉛ 富んでいる	3 ( 0.6)
	㉜ 貧しい	93 (19.7)
	㉝ その他の感じ ( )	114 (24.2)

%)が高い割合を示している。

また㉝の「その他の感じ」を回答したものが全体の中、24.2%で高率であったのは、恐らく㉑から㉓までの各回答項目に満足できない、それ以外の感じを具体的に表現しようとした被調査者の心の表れと考えられる。

今、それらの意見を例示すれば次の如くである。

①古代の歴史、戦争。②古い。③恐い。④社会主義政権。⑤内乱の激しい国。⑥力強い。⑦北と南の対立。⑧昔から存在する差別のような見下げた悪い感じ。⑨隣国。⑩自由がない。⑪朝鮮高校生の暴力。⑫閉鎖的。⑬よく知ってい

るようで余り知らない感じ。⑭朝鮮高校のガラの悪さ。⑮昔の日本。⑯中途半端な感じ。⑰差別的な感じ。⑱食べ物がおいしい。⑲澄んでいる。⑳トゲトゲしく悪い感じ。㉑いやしい。身分が低い。鶴橋。㉒厳しい。㉓歴史の重みを感じる。㉔連帯。㉕文化の伝播。㉖南北が統一された呼び名のようでよい。㉗屈辱を受けている。㉘近代化に遅れている。㉙余り口にしたくない。㉚発音の仕方により差別発言になる。㉛分裂。㉜日本文化の源流。㉝在日朝鮮人。㉞劣っている。㉟社会主義。全日成。情報不足。㊱異和感。㊲冷たい。㊳さびしい。等の意見が見られた。特に、①から㉗までの意見で重複する意見の多



(表26)

調査番号	回 答 別	B調査, 456名 (98.1)
[14]	㉑ 明るい	57 (12.5)
	㉒ 暗い	143 (31.4)
	㉓ 生き生きしている	31 ( 6.8)
	㉔ きれい	15 ( 3.3)
	㉕ きたない	8 ( 1.8)
	㉖ 富んでいる	16 ( 3.5)
	㉗ 貧しい	56 (12.3)
	㉘ その他の感じ ( )	130 (28.5)

かったのが、③、⑦、⑯、⑲、⑳等であった。これらの各意見を概観してみると、日本人の一般的な意見を反映しているように思われて興味深いものがある。いづれにしろ、現実の政治的、社会的要因から受けている印象や感じからのものが大部分を占めているのであろう。なお、( )内に「何とも思わない」と記入した者が30名いたことも記述しておかねばならない。

#### (n) 調査番号 [14]

「韓国」という呼び名にあなたはどんな感じを受けますか。

この設問項目は、調査番号 [13] との比較を試みたものである。結果として、「韓国」という呼び名に対して、㉑「明るい」(12.5%)よりは㉒「暗い」(31.4%)が高い割合を示しはしたが、「朝鮮」という呼び名に対するよりは、その差が縮まっていることが目につく。また、㉕「きたない」(1.8%)よりは㉔「きれい」(3.3%)と回答したものが若干、高い割合を示したのは「朝鮮」に対するよりは逆の現象の結果が得られたことは興味深いと言えよう。また、㉖「富んでいる」(3.5%)よりは㉗「貧しい」(13.2%)と回答した割合が「韓国」「朝鮮」どちらの呼び名にも印象づけていることから見て、先進国、日本に住む若者からはまだまだ隣国は後進国と

いうイメージで意識されていることがわかる。

また㉘の「その他の感じ」を回答した者が全体の中、28.5%と高率であったのは既述した如く、各回答別項目以外の感じを抱えていることの具体的な表出と考えられる。今、前述した如くそれらの意見を例示すれば次の如くである。

①独裁政治。②発展途上国。③政治不安。④内乱の激しい国。⑤劣等性。⑥国家問題が多い。⑦民主主義とは思えない。⑧食べ物おいしい。⑨資本主義社会。⑩軍の暗いものを感じる。⑪おもたい。⑫柔らかな感じ。⑬閉鎖的で視野が狭い。⑭堅い。⑮新しくきびしい国。⑯韓国製の服のことが浮かぶ。⑰非文明的。⑱軍事政権。⑲かたくるしい。⑳軍国主義。㉑孤立している。㉒近代化に遅れている。㉓民主主義が遅れている。㉔朝鮮より軽い感じがする。㉕朝鮮より富んでいる。㉖分裂。㉗こわい。㉘近隣国。㉙歴史的に新しい感じ。㉚不安定。動乱。㉛さびしい。㉜文化的、歴史的な古さ。㉝金大中氏。㉞独裁政権の伝統的支配。㉟イメージを感じる前に知識がない。特に①から㉟までの意見<sup>15)</sup>の中で重複して見られたのは、①、②、③、④、⑧、⑭、⑱、㉒、㉓、㉘等であった。これらの

15) ①から㉟、①から㉟までの各意見は順不同で、高率の順位ではない。

(表27)

回答別	調査番号別	
	(13)「朝鮮」という呼び名に対する感じ	(14)「韓国」という呼び名に対する感じ
Ⓐ 明るい	15 ( 3.4)	57 (12.5)
Ⓑ 暗い	190 (40.3)	143 (31.4)
Ⓒ 生き生きしている	29 ( 6.8)	31 ( 6.8)
Ⓓ きれい	8 ( 1.7)	15 ( 3.3)
Ⓔ きたない	20 ( 4.2)	8 ( 1.8)
Ⓕ 富んでいる	3 ( 0.6)	16 ( 3.5)
Ⓖ 貧しい	93 (19.7)	56 (12.3)
Ⓖ 其の他の感じ	114 (24.2)	130 (28.5)

(表29)

調査番号	回答別	B調査, 449名 (96.5)
[15]	Ⓐ 歓迎する	160 (34.4)
	Ⓑ 歓迎しない	22 ( 4.7)
	Ⓒ 仕方がない	190 (40.9)
	Ⓓ 血が混じるので絶対反対である	15 ( 3.2)
	Ⓔ そんなことは知らなかった	62 (13.3)

意見は学生達の率直な感じを述べたものであろうけれども、これからの両国間に於ける往来や、教育やマスコミを通じた文化的交流が切に望まれるところである。ちなみに、(表25)と(表26)を対照させ比較してみると上の如くである。

(o) 調査番号 [15]

近年、在日韓国・朝鮮人の中で日本人に帰化する人が増加していますが、あなたはこのことについてどう考えますか。

在日韓国・朝鮮人の帰化は1952年に始まるものである。日本の敗戦後のGHQの占領下においては、日本に引き続き在留する朝鮮人は、G

HQの政策により、従前どおり日本国籍を保持するものとして取り扱われていたので、法形式上帰化の問題は生じなかった。その後、1952年4月28日のサンフランシスコ条約(連合国と日本との平和条約)の発効を境にして、日本政府により、在日朝鮮人は一律に日本国籍を喪失するとの措置がとられ外国人となり、ここに帰化の法的前提条件ができあがったのである。

金英達氏は「在日朝鮮人の帰化——日本の帰化行政についての研究」の中で、在日韓国・朝鮮人の帰化許可者数の推移者およびその背景について次の如く述べている。

『1952年以来27年間で約9万3千人の在日朝鮮人が日本に帰化していることになる。もちろん、その中には元日本人や民族的混血の子供も多数含まれているけれども、これは、59年から始まった共和国への帰国者の総数約9万2千人（76年までの数字）に匹敵し、やがては確実に上回るものである。しかも、最近では年々5千人という勢いである。客観的に見て、在日朝鮮人の帰化への動きは、もはや無視することのできない大きな潮流となっていると言わなければならない。今日、在日朝鮮人問題を論ずるとき、この事実認識を欠落させることはできないであろう。』<sup>16)</sup>

以上、氏が述べる如く、在日韓国・朝鮮人の帰化問題はもはや無視できない問題となっている

ことは明らかである。かような潮流と現実に対して、被調査者たちはどのように意識しているのだろうか。㊦「そんなことは知らなかった」（13.3%）を除くと、かなりの高率で一般の若者達はこの現実を意識していることになる。また、㊦「歓迎する」（34.4%）と㊦「仕方がない」（40.9%）を合わせると、75.3%の者が仕方なく一応この事実を歓迎していると判断できよう。しかし、㊦「歓迎しない」（4.7%）と㊦「血が混じるので絶対反対である」（3.2%）を合わせると7.9%の者が明確に反対していることがわかる。ヨーロッパの諸外国に比べて、血統的思考方式を民族概念に導入している従来の日本人の物の見方、考え方の一端がまだなお日本人の若者の中に根づいているようである。

(表30)

調査番号	回 答 別	B調査, 447名 (96.1)
[16]	㊦ 何人住んでも自由である	214 (46.0)
	㊦ 法的に居住が許されている人は日本に住んでもよい	188 (40.4)
	㊦ 本国に帰国してほしい	15 ( 3.2)
	㊦ これ以上増えて欲しくない	30 ( 6.4)

## (p) 調査番号 [16]

在日韓国・朝鮮人の居住についてどう思いますか。

(表30) より、現在、日本に居住する在日韓国・朝鮮人に対して好意的に歓迎するのが㊦㊦合わせて、86.4%であり、否定的なものが㊦㊦の9.6%であることが分かる。なお、㊦㊦に関しては具体的にその理由を問えばまた興味ある結果が得られたかもしれない。

## (q) 調査番号 [17]

朝鮮語講座についてあなたの自由な意見を述べて下さい。

この設問項目はA調査では「朝鮮語」についての学生の広範囲で、かつ自由な意見を求め、

16) 同書 p. 24 参照。

B調査では「韓国・朝鮮関係講座」についての同趣旨の自由な意見を求めたが、本稿に於いてはA調査で求めた「朝鮮語講座」についてだけの学生の意見を記述するにとどめた。

今、それらの意見の中から目ぼしいものを列挙して記述することにする。

①朝鮮語に限らず外国語を学ぶということは外国の文化や歴史、国民性を知る上に重要なポイントになる。

②朝鮮語はこれから注目されるべき語学であると思うが、客観的には難しいという先入観が先立ち敬遠しがちである。

③近隣の朝鮮に関する日本人の認識は低いと思われるので、朝鮮関係の講義を受講することは意義があると思う。

- ④日本史をよく知るためにも中国、朝鮮の歴史が不可欠であるので朝鮮語は必要だと思う。
- ⑤アジアの中心としての日本の立場から、国際化のためにも朝鮮語講座は必要だと思う。
- ⑥日本人にとって、アジアの言語を学ぶという事は必要であるが、朝鮮語は利用価値が高くないので必修科目にすることは反対である。しかし、朝鮮語講座が存在することは意義のあることだと思う。
- ⑦日本が東洋における先進国として、アジア諸国の文化発展に役立たねばならないのであるから、研究対象として、朝鮮及びアジアとの関係を知るためにも朝鮮関係の講座は意義があると思う。
- ⑧両国の歴史的、文化的な関係とアジアにおける平和・友好の必要性を学び、現代の日本の朝鮮に対する認識を是正して行きたい。
- ⑨朝鮮語講座は受講したいが、英語で精一杯なので自信がない。
- ⑩朝鮮語講座は必要であるが、第2外国語としての仏語や独語が必修科目となっていない現状から、履修者が少ない朝鮮語を必修科目として扱う必要はない。
- ⑪朝鮮語の文字が特殊であるため、覚えにくいのではないかという先入観があって受講するのにとまどう。
- ⑫朝鮮語講座に認識不足な面が多分に見られるので大いに広めていき、自ら進んで履修するようにしてもらいたい。
- ⑬朝鮮語は利用価値が低いいため、就職のための武器として外国語を学ぶ者には敬遠されるのではないか。だから無理に必修科目とする必要はない。
- ⑭朝鮮語初級ぐらいは選択必修科目にしてもよいと思う。
- ⑮今、4回生のため、もう受講できないが今までに受講しておけばよかったと思う。今日の社会状況から考えて、朝鮮や中国を無視したり、軽視しては今後の日本は成り立っていかない。アジアの中の日本であるからアジアを重視し、近隣国の朝鮮をもっと知るべきである。
- ⑯朝鮮語講座の時間、特に初級の時間帯に他の

必修科目が重なることのないように考慮してもらいたい。

⑰在日韓国・朝鮮人は是非受講したらいいと思う。

⑱朝鮮語を第2外国語にしている大学は日本の各大学で数える程しかない。この先進性は本校の誇りとすべきものである。

⑲朝鮮語を学ぶとともに、朝鮮をどのようにとらえるかを数えるべきである。

⑳朝鮮語講座は在日朝鮮人の生活実態や社会性を含んだものとしてとらえていく語学講座であることを望む。

㉑マスコミ関係などで騒がれている程、本学内に於いて朝鮮語に対する意識が高まっていないように思う。

㉒要るようで要らないのが朝鮮語である。

以上、学生諸君の率直な意見を掲載した。これらの意見の中には十分な検討を必要とする問題もあるが、本稿では言及しないことにする。

## VI あとがき

大学における第2外国語に関しては、その理念と実践の面から多くの問題がある。実際上は英語教育が第1外国語として比重が過大であるため、その陰で放置されているという感じがしないでもない。

英語教育は日本において、100年を超える歴史の重みがあり、立派な辞書も多種作成されてきた。また、教育方法が組織的に考えられ、かつ、実験されてきた。そのことは、同じ外国語の中でも英語教育は他を圧していることから分かる。

大学によって独仏以外の外国語を第3外国語に分類しているところもあると聞く。実際、大学教養課程で、2つの外国語の修得が義務づけられているのは旧制高校、旧制大学予科の考えをそのまま引き継いだ結果であろう。

第2外国語は、言うまでもなく、大学に入ってから学習する外国語であるため、ふりあてられる時間数も少ない。結局、いろいろな面で無理をしているのであり、単位取得形式主義と教養主義が結びついている。

第2外国語を必修としてではなく選択制にしている大学が増加している現状から見て、外国語教育は実用主義なのか、教養主義なのか問題となるところであろう。

桃大における朝鮮語講座は文学部が設置されていないにもかかわらず、第2外国語として学年の履修制限がないことや、初級が一週2コマである等は、他の一般大学に比してやや恵まれていると言えようか。

経済大国、資源小国の日本が外国語に弱く、理解されないままでいいということにはならない。国際性は視野の問題であって、外国語ができるかどうかの問題でもないし、外国語ができれば国際性があるというわけではないが、大学における外国語教育の問題は大衆化の波にありながら、一般の文化水準と国際理解を高めるための使命を負わされているといっても過言ではなからう。

第2外国語に対する対応の仕方は実は、この使命にどう答えるかにあるといえる。従って、第2外国語が重要視され、実質的效果をあげられるようにするためには、それぞれの外国語を担当する側に教授法の工夫がもっとなされてしかるべきである。それと関連して、外国語教育を大学でどう位置づけていくかという問題がもっと考察されねばならないと思われる。

文化と言語には密接な関係があることは今さら言うまでもないが、狭義の文化が、「学問・芸術・道徳・宗教など、人間生活を高める上で新しい価値を作り出す精神活動とその所産を意味する」とするならば、本学のように韓国・朝鮮に関連する科目が実施されていることは大変望

ましいし、その意義は高く評価されていると思う。

日本の教育がかかえている諸問題の中で、元文部大臣の永井道雄氏はその著「永井道雄の教育の流れを変えよう」の中で述べている多く、日本の学問や教育には、外国との関係について2つの特色があったことを指摘している。即ち、その第1は摂取吸収型であり、第2は先進主義である。氏の報告によると、19世紀以降は西洋文化の摂取につとめ、第2次大戦後は、多数の日本人がアメリカに渡って学習し、研究した。日本の先進主義とは、いわゆる先進文化と後進文化を区別して、前者には敬意を、後者には無視、または蔑視をもつて臨むことであったと。その結果、招いた弊害と反省は何であるかは既に現代史を見れば明らかである。これからは、一方的な摂取吸収ではなく相互交流を、先進主義ではなく、どの国、どの文化とも対等な交流が促進されなければならないだろう。学問や教育が国際化するというのは西洋化やアメリカ化と同義語ではないのである。教育の国際化は、まず隣国から手をつけるべきである。

最後に、本稿が桃大に於ける望ましい朝鮮語教育の参考となり指針となる一助になることを望む。

なお、本稿を作成するにあたり、学生のアンケート調査を快よく御引き受け下さり協力いただいた段先生、鄭先生、芦田先生にお礼申し上げたい。また、本稿を発表する機会を与えてくださった徐龍達先生に感謝を申しのべる。

(1980年12月)